

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 ゆめ 組	6 月 19 日 (木)	鈴江

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ～天気～ 虹の色は何色？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日頃から子どもたちは、天気や虹に興味をもち、虹がどのようにできるのか、光がどのように色を作り出すのに関心を示している。また、色の変化や光のふしぎを感じ取り、身近な現象に対する好奇心が育まれている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:05	<ul style="list-style-type: none"> ・くもり、雨、雪、晴れ以外の天気や、空に現れる現象は何が考え、発表する。 ・「晴れ、くもり、雨、雪の他に知っている天気はあるかな？」と問いかけたり、①②プログラムでの活動を振り返られるような問いもかけていく。 ・虹の意見が出たことを確認し、今回は、虹について活動することを伝える。 ・虹を見たことがあるか、虹はどんな色か考え発表する。「虹はどんな時に見ることが出来るかな？」と問いかけ、実体験から天気との結びつきに発展するよう援助する。 ・意見はホワイトボードにまとめていく。 	【環境設定】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 室内で虹の写真や描いた絵を見ながら話し合えるスペースを確保する。 ・ 室内で実験が安全に行えるスペースを確保する 【準備物】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 虹のイラスト ※人数分 ・ クレヨン（色鉛筆）※人数分 ・ ペットボトル(表面が滑らかで円筒形のもの) ※グループで実験できる数 ・ 水 ・ アルミホイルをつけた白色灯の懐中電灯 ※それぞれ実験できる数 ・ 白い紙 ※グループで実験できる枚数 ・ ホワイトボード ・ ホワイトボードマーカー ・ 写真や図を掲示するためのマグネットなど ■参考資料 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の虹の写真
10:05～10:15	<ul style="list-style-type: none"> ・虹の色や太陽の光について自由に発言し、子どもたちが知っていることを共有してみる。虹の色を予測して絵を描いてみる。 ・虹の色については固定せず、それぞれが感じる色で書いて良い事を伝える。 ・出来上がった虹の絵をホワイトボードに掲示し、みんなで見合う時間を作る。 	【事前準備】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 虹のイラストを人数分用意しておく。 ・ 虹のイラストの活動でクレヨンや色鉛筆を十分な数を準備しておく。 ・ 予め実験に使うアルミホイルをつけた白色灯の懐中電灯を準備しておく。
10:15～10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミホイル、懐中電灯、ペットボトルを使って実験を行う。【実験①】 ・実験の手順を知らせ、どうなるか考え、発表する時間を作る。 ・「この実験でどうなると思う？」「どんなものが見えるかな？」と問いかけ、発言を援助する。 ・光を水に通すことで虹が現れることを観察し、実際に虹を作る体験をする。 ・「何が見えるかな？」「虹ができたね。虹は何色かな？」と伝え、観察の視点や試行錯誤が広がるようにする。 	【実験準備】 <ul style="list-style-type: none"> ①アルミホイルを20cm四方に切り、真ん中にカッターで5cm程度の切れ目を入れる。 ②懐中電灯の真ん中に切れ目がくるようにアルミホイルをかぶせ、輪ゴムでとめておく。 ・ 予め実験の内容を行っておく。 【実験】 <ul style="list-style-type: none"> ①ペットボトルに水を入れ、懐中電灯の光がペットボトルに反射する位置に紙を置く ②懐中電灯とペットボトルの角度を見ながら紙の位置を変え、虹の写る場所を探す。
10:30～10:40	<ul style="list-style-type: none"> ・虹ができる仕組みを振り返り、太陽の光が実際にいろいろな色を含んでいることを理解し、光と色の関係について話し合う。 ・光を水に通すことで虹が現れることを観察し、実際に虹を作る体験をする。 ・実際の虹の写真をホワイトボードに貼り、虹ができるのはどんな時か考える。 ・「虹がどういう時に現れるかな？」と問いかけ、虹ができる仕組みを考える。 ・「虹が見える時は、雨上がりが多いね。」「虹が見えている時、太陽はいるかな？」と問いかけ、水(雨、水蒸気)と光(太陽)によって虹ができていことに気付けるように工夫する。 ・次回は、太陽についての調べてみることを提案する。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・子どもたちに虹の仕組みと光の色について学ぶ機会を作った。</p> <p>・最初に「虹は何色？」という問いを投げかけ、子どもたちは自分の考えを自由に発表した。</p> <p>・その後、虹を描いて光の色を予測をしたり、イラストを見たりして、実験を行い、光が水を通ると実際に虹が現れることを確認した。</p> <p>・ペットボトルと懐中電灯を使い、光が水を通過することで色が分かれる現象を観察し、実際に虹を作り、その過程を実感することができた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・実験の最中、子どもたちは「わぁ！虹ができた！」と驚きの声を上げ、興奮していた。</p> <p>・光を水に通した瞬間、「あっ、色が出た！」と自分の発見を喜ぶ姿が見られた。</p> <p>・「太陽の光って白いけど、虹の色があるんだね！」と気づきを共有する場面もあり、興味津々で実験を進めていた。</p> <p>・実験後の振り返りでは、「光って何色があるんだろう？」とさらに深い質問を投げかけ、考えを広げる姿が見られた。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・子どもたちの発言を受け入れ、さらに考えを深めるために「どうして虹の色が出るんだろう？」や「他の色はどこでみられるかな？」といった質問を投げかけた。</p> <p>・実験中には、「どんな変化が起こると思う？」と予測させ、実際の変化を観察しながら子どもたちの発見をサポートした。また、実験を通じて「光の色が混ざって虹になる」という結果を整理するために、子どもたちに「自分で見たことや考えたことを話してみよう」と促し、意見を自由に表現できるようにした。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・活動を通じて、子どもたちは太陽の光の色や虹の色に対する興味を深め、実験を通じてそれらの関係性を理解できた。</p> <p>・子どもたち同士で意見を交わしながら、考えを深める姿が見られた。予測と実験の結果の違いを楽しみながら、自分の考えを発表できたことが良い成果につながった。</p> <p>・次回も、子どもたちが自分で考えたり、仲間と意見を交わしながら進められるような活動を続けていきたい。</p> <p>・実験活動を取り入れたことで、子どもたちの理解が深まり、より興味をもって参加する様子が見られた。今後も実際に体験できる活動を取り入れていきたい。</p>	<p>虹は子どもにとっても身近な自然現象で且つ印象に残りやすいものですね。</p> <p>虹は七色というイメージがありますが、グラデーションの美しさを感じながらも科学的な着眼点を持っていたのではないのでしょうか？</p>

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 ゆめ 組	7 月 25 日 (金)	鈴江

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ~水~ 水ってなに？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
水を触ったときの冷たさや流れる様子、こぼれたり消えたりする不思議さに日常的に興味をもって いる。「なんでぬれるの?」「なんで流れるの?」と、感覚を通じた体験から水に関心を寄せている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00~10:10	・水とは何かを問いかける。	【環境設定】 ・安全に探究できるよう環境を設定する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
10:10~10:30	・子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。 ・水を水槽やコップに入れて観察してみる。 ・さまざまな形の容器に水を入れて、形の変化を探究してみる。 ・水の流れを探究してみる。 ・温度で水がどのように変化するかを調べてみる。	
10:30~10:40	・探検での発見や感想を発表する。発表の内容をホワイトボードにまとめていく。 ・水の性質について確認する。	
		【活動使用教材】 ・水 ・絵の具(水色) ・透明のプラスチックコップ ・さまざまな形の容器(皿、コップ、袋など) ・スロープ ・電気ポット ・氷 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー
		【事前準備】 ・水を扱う活動になるため、水で濡れる点に注意し、転倒などの事故を防ぐよう環境を設定しておく。 ・牛乳パックやペットボトルなどで傾斜のあるコース(スロープ)を用意しておく。子どもたちと作成しても良い。 ※切り口でけがをしないよう配慮する。 ・氷を作っておく。子どもたちと一緒に作っても良い。 ・探究活動で使用する用具の使用方法を設定しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、水はどのようなものか考え、「飲み物」「白、透明、水色」「味はしない」「海、川、浄水場」「いろんな形、形がない」など、どういった時に使うものか、見た時の印象などから水について考える発言していた。</p> <p>・水について、色、形、流れ、状態変化などをスロープや氷を使った遊びや色水遊びなどの体験を通じて探究を深めた。</p> <p>・水色と白の絵の具を溶かした色水、何も溶かしていない水で色を見比べて、水の色を考えて、その後海や湖の写真と見比べて何故青いのか考えた。</p> <p>・振り返りでは、気づきや調べた内容を共有したり、発表したりした。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「雨とか雲も水で出来てるよね」 ・「水色っていうけど、コップの水は透明だね、何で？」 ・「水も氷もいろんな形で、形がないね」 ・氷を使ったカーリング遊びを行い、遊んでいく内に次第に溶けて水になる様子を観察して楽しんでいた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが見つけたことに対して、「ほんとうだね！なんでそうなるんだろう？」と問いかけを重ねることで、さらに観察や考察が深まるように意識した。 ・水色についてじっくり考えられるように、水色の海や湖などの写真を用意して、一緒になぜコップの水と色が異なるのかを考える時間を設けた。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<p>・水の流れを感じられるよう、一緒に牛乳パックでスロープを作り、複数回使用して遊んだことで、水への興味が高まった。</p> <p>・保育者が単純に答えを「教える」のではなく、子どもたちと「一緒に気づく・一緒に不思議がる」というスタンスで関わるのが、探究的な学びの促進につながると感じた。</p> <p>・わくわく探求ラボで雨や雲に関する実験を行ったことを覚えていて、水に関して意見を出し合ったときにすぐに「雨」「雲」を連想して答える子がいて、以前の取り組みが活かしているように感じた。</p>	<p>暑い時期ならではの、氷の冷たさ等五感を働かせて探究する姿が見られましたね。</p>

実施クラス				実施日		実施保育者名	
5	歳児	ゆめ	組	10	月 30 日 (木)	鈴江	

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ これは何色？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
<p>日々の生活の中で、身の回りにある色に自然と目を向けている。『この花はあか！』『先生の服はみどりだね』と色を言葉にしたり、絵を描くときに好きな色を選んだりしている。また、食事の中でも『にんじんはオレンジだね』『ブロッコリーはみどりだ』と気づいたり、活動の中で色の違いや混ざり方に関心をもつ姿も見られる。</p>		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00-10:15	<ul style="list-style-type: none"> ・「いろおに」をして、保育室内の色に関心をもたせる。 ・色の原料の写真から何色ができるかを考える。 ・12色の色画用紙の中から、好きな1色を選ぶ。 ・選んだ理由を考え、なぜその色が好きなのかを考える。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがたくさんの色を見つけやすいように、環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12色(赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶)の色画用紙 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真(赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クチナシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨) ・寒色暖色中間色の色見本
10:15～10:30	<ul style="list-style-type: none"> ・白い画用紙を選んだ色と同じ色にしてみようと問いかける。 ・素材から何色になるのかを想像して白画用紙にこすりつける。 	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤、橙、黄色、ピンク、青、水色、緑、紫、白、黒、灰色、茶色の八つ切り画用紙→16等分に切り分ける。(人数分またはグループで1セット)
10:30～10:45	<ul style="list-style-type: none"> ・色の持つ印象について話し合う。 ・「どの色が楽しい?」「どの色が悲しい?」など、色彩心理学の視点から色の効果を体感する。 ・「赤は元気が出る色?それとも静かな色?」など、感じ方の違いを共有する。 ・学んだ色の働きや面白さについて発表し合う。 ・生活の中で色を意識する機会を増やすよう促す。 ・身の回りの色に注目し、それぞれが持つ意味や効果を考える。 ・「今日学んだ色のことを、これからどんな場面で思い出せるかな?」と問いかけ、生活と結びつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色の効果、寒色暖色中間色について事前に学習して理解を深めておく。 ・色の原料について事前に学習して理解を深めておく。 ・赤青黄色紫白黒などの原料の写真。(赤…カイガラムシ、青…ラピスラズリ、黄色…クチナシ、紫…アカニシ貝、白…ハマグリ、黒…墨) ・寒色暖色中間色の色見本をプリントする。 ・白い画用紙と着色が期待できる素材を複数用意しておく。 ・色彩心理学に関する資料を用意し、理解しておく。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>色の違いや成り立ちについて関心を持ち、積極的に考えながら活動を進めた。「この青は冷たそう！」「黄色は元気になる色！」と色の印象を話し合い、色の持つ効果を実感していた。また、実際に12色の中から好きな色を選び、「この色が好きな理由」を考えることで、色への理解を深めていた。</p>	<p>【子どもの姿・声】 ・「この色は明るくて楽しい感じ！」「紫って、どんなものからできているの？」「赤と青を混ぜたら、何色になるのかな？」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。</p> <p>【保育者との関わり】 ・「この色を見てどんな気持ちになる？」「どんな場面でこの色が使われているかな？」と問いかけながら、子どもたちが色の持つ意味を考える手助けをした。また、異なる文化や歴史における色の役割についても簡単に紹介し、興味を広げるようにした。</p>

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、色の違いや組み合わせに強い関心を持ち、「もっといろいろな色を見てみたい！」と興味を深めていた。 ・自分の好きな色を選び、その理由を考えることで、色への理解が深まり、表現する力も育まれていた。 ・色彩心理の話に興味を示し、「この色はどんな気持ちの時にいいの？」と質問する姿が見られた。 	<p>色から心理の話に繋がるというのは大人から見ても興味深いです。お家に帰って保護者に話をしたりすると経験の幅が広がりますね。</p>